

幼児たちの後の祭り

秋
浜
悟
史

これは、強いて名づけるならば、重なり折れた共有体験が醸す、迷彩化した原情景の喜劇。

幼児教育の研究会をひらいている一連がある。彼らは、ごっこ遊びを追いながら、つい自分をも幼児だと錯覚してしまうようだ。

錯覚が、錯覚を解き放つ。

思いつきを等しくする過去が、同一地平に抱き寄せられ、共鳴狂乱する。

彼らは、あの激闘の学生時代から、集まりを連綿とつづけてきているらしい。しかも、どこまでも拡大するごっこ遊びへの傾斜振りから窺うと、彼らの背景には演劇集落もけっして無縁でなからう。近い昔、彼らは過去巡りを商品化しようと計ったことさえありはしなかったか。どうにも、そのための宣伝キャンペーンの名残りに見えなくもないのだが。

かあたん

チエコブ

飯繩いづな美喜

社長

お念

良

坂巻太郎

新見朝子にいみ

他に俳優連

舞台は、基本的に黒一色。幼稚園のホールだろうか、高い高い
ポールが一本、ピアノ、それに脚立。時に応じて、電飾がかが
やく。時に応じて、照明や音響の装置が、装置そのものを見せ
たりする。すべての景は、深い二重露出でつなぎあわされる。

第一部

実際に幼稚園で集録した子どもたちの声が高まって、幕があく。エプロンを着けたかあたんが、黒一色の中に立っている。

かあたん ……ほ、か、に、質問ありませんか。……ない。ほんにございませんか。みなさん、遠慮してるのかな。それともお口を忘れてきたのかな。まるでみなさんまでが子どもにかえつたみたい、……（誘いかけの笑い）そうなんです、今まで子どもは言葉で云わなくてもよかった。泣きんぼ、わめきんぼ、だまりんぼ、噛みつきんぼ、そうして子どもは親へ自分を表現してたんですね。でも家庭をはなれたら、それだけではだめ。家庭と、こ、こ、は、子どもの集団という点でちがう。今日から、子どもの環境が変わったんですね。ここでは自分でみんなやってゆかなければならない。みんな同じ、……（ドンと踏む）床に立って出発しなければならぬ。同じ床に立つためには、おともだちという関係が大切になる。集団の中で生きてゆくためには、言葉が一番デコになる……、

おそらく、ジェット機の飛来する音だろうと思うが、そういう暴力による切斷。

かあたん（声を張りあげる）わたしたちはおともだちづくりのお手伝いです。大人は余計な手出しをしない。子どもにまかせましょう、大きな子どもの集団に。……親は、おいてけぼりにされるのかな。もちろんちがいますね。親も、この教育の場へ加わる

権利がある。そうでないと、子どもから教育を正しく受けないと人間としての発達がとまってしまう。では親はどういうふうな教育の場へ加わるか。まず今日からは、自分の子を客観的に見る訓練からはじめるわけです。他人の中に自分を見詰め、言葉もちいるすべての中に自分の存在を確かめる……、

再び、ジェット機の暴力。

かあたん（悲鳴） できない。口がつかえてしまう。言葉をもちいるすべての中に自分の存在を確かめる。集団の中で生きてゆくためには、言葉が一番テコになる。……どうして、こんなことが、すらり云えてしまったんだろう。さも自信ありげに、まやかし、まぼろし、うそ、いつわり、卑怯者、立往生、かかし、でくの棒。みんながあだなをつけてくれたように、わたしはどうせ、老いさらばえたかあたん、子どもも生んだことのないかあたん。いっそ、眼鏡をはずしてしまおうか、もやがかかって見通しきかぬ眼鏡は。いいえ、わたしはからくも立ち直ります。わたしは真当な教育者に再び生れ、ふるえ、ただれよう。……もう質問はありませんか。

歌声がしのび寄ってくる。

遠くうしろをふりむくと、

にごりは消えて、にがみが咲いて、

にがりはトーフ、トーフはやわらかく、

かあたん、遊戯のように舞っていたが、そこにエプロンでそろいの俳優連がおそいかかって、幼児語的問答に入る。

黒一色に電飾の光景。

——やわらかいの？

トーフだもん。

トーフはね、かあたんみたい。だってやわらかいんだもん。

やわらかくないよ、うちのかあたん。

かたいトーフだってあるよ。

かあたんはかたくない。

でも、かあたん、白いでしょ、あつたかいでしょ。やつぱり

トーフだ。

そうだ、かあたん、やつぱり、おいしいんだもん。

かあたんはトーフだ。トーフ、トーフ……。

トーフ。

フネ。(と尻取り遊びに移る、例えば)

ネズミ。

ミミズ。

ズック。

クジラ。

ライオン。

ンだ、ンだ。(はやしたて、罰則が加えられる)

ラッパ。

パイパイ。

ヤカン。

ンだ、ンだ。(罰則)

ヤキュウ。

ウマ。

マリ。

リンゴ。

ゴリラ。

ランドセル。

ルビー。

ビラ。

ラクダ。

妥協。

なに、それ。

ラッキョウだろうか？

ダ、ダ、ラクダのダね、墮落。

いじわる。変な言葉使う人、出てゆけ。

ダね、ダ、ダ、蛇足。

俳優連、群がり、うたい舞う。ピアノ奏者も俳優連である。

遠くうしろをふりむくと、。

にごりは消えて、にがみが咲いて、

にがりはトーフ、トーフはやわらかく、

あれは蛇足にすぎぬのか、

蛇足がたかぶっていただけか、

蛇足に意味があったのか。

おしまいの三行が何回もくりかえされ、次第に一人一人の

つぶやきになって、みんなが退場。

空にゴンドラ。通称チェコブが乗っている。ルパシカ。ビ

ルの窓掃除か？

チェコブ ようするにだ、ただもう軽くて細い光りのような漠然とした、けっしてなよなよしているわけではないが、思い出だけが放つある種の傷が、気づくまでもないが、これはいかが、いかが

わしいが、残っているとすれば残っているのだが、ようするにだ、ぼくがあなたへ伝えたいと願ったことが、そっくりそのまま通じたかな、とても信じられない。もちろん、もっと別のやり方でぼくが語りだしたら、あなたはあるいは納得してくれるかもしれない。いや、いやいや、いやいやはやめましょう。ぼくは、通称チェコブです。C、H、E、K、H、O、V、……シヨパンのチヨピン流に、チエーホフのチェコブです。ついでにこの入れ物も説明しましょう。ゴンドラ。ここはヴェニスではないから、ゴンドラは都会の壁を漕ぐ。ビルだ、ガラスの壁ですよ。窓のガラス掃除がぼくの仕事、窓の一つ一つにお月様がうつっている、だから夜ということになる。ぼく、熱心には働かない。なぜって、ぼくが急いでふきとったら、それだけお月様の数が減ってしまう。

いつのまにか、そのような夢幻の世界がつくりだされる。

チェコブがたゆたうゴンドラの上でうたっている。

あした
明日があるうちは、

今日もまた夜、

夜がたくさんふえて、

お月様がたくさんふえた。

のぞみがあるうちは、

今日もまた恥、

恥がたくさんふえて、

人でなしがたくさん減った。

電飾が消え、ゴンドラが地に降り立つ。しかし、チェコブ

はしばらくのあいだ船漕ぎをやめない。

チェコブ 風はない、やんだのだ。沼の黒いよどみへむかって、ぼくはためいきをする、眼をつむる。ぼくは飯繩いづな美喜を待っているのに、飯繩美喜がまっすぐ近づいてくる足音を全神経かたむけてとらえようとしているのに、この沼に聞えるのは、死んだ人たちのせわしげな息づかい、どこへつれてゆかれるのかわからないで困っている枯れすすきたちのざわつきゆれるかすかなひそみ声。飯繩美喜の下ぶくれの生毛の光るほつたへほほずりする時、秘密の色をいっばいたたえてささやき波立つ、おどおどうれしい愛のもつれの悲鳴。……（照明や音響の装置がむきだしにされはじめ。舞台裏的感觉になる。チェコブ、客席を見わたし）待てよ、おかれてくる人もいるんだな。……はて、とわれにかえる。風がないのに、どうしてこの沼の、この枯れすすきたちが勝手にゆれるのだろう。もう一度やりなおしだ、ぼくは再び深く深く眼をつむる。

いかにもチェーホフ的形象そっくりに飯繩美喜、舞台裏的

感じの景をそぞろ歩き。パラソル。かもめのマークのつい

た稽古用台本を手に行っている。『ワーニャ伯父さん』第三

幕、エレーナ。

美喜 ……「人の胸の中を知らながら、手助けしてやれないぐらい、辛いことはない。あの人はあの子のことを想ってはいない、それは確か。……わたしには、気の毒なあの子の気持がよくわかる。どうにもやり場のない退屈なその日その日、退屈なその日その日、退屈、退屈、あたりをうろろしている連中ときたら、人間にあらず、いっそ灰色の影法師。耳に聞えてくるのは、俗悪な

くだらない話ばかり。ただ食べて、呑んで、寝ることしか知らないような連中の中へ、時どきああして、みんなとは似もつかない、風采もよければ話も上手で、女好きのするあの人やってくるんだもの。闇夜に明るいう月がのぼったみたい」

舞台裏の景に残っていた月が消える。

チエコブは、まだ飯繩美喜と接触しない。

チエコブ ……ぼくは恋をゆめみている。ゴンドラのゆりかごで眼をつむり、ゆめみる生活が大切なものとなって、ほぼ五千年を経た。ゆりかごぐらしが長くなって、ゴンドラは重みに耐えられず、無惨にやせてゆくばかり。恋でぼくはいつも主役だ、恋以外の夢でもぼくはいつも主役だ。ぼくは、真剣に必死の思いでゆめみている、恋を、ぼくの才能を認めぬすべての人間の殺害を、俳優として成功を。

ゴンドラの上で見栄を切ったチエコブ、足を踏みはずし床

にたおれる。チエーホフ引用のエレーナのせりふとだぶっ

て、チエコブは自分を嘲笑う。

美喜 ……「わたしには魔性の血が、流れている。……いっそ小鳥みたいに自由になって、空へ飛び出せたら。みんなの寝ぼけっ面や、あきあきするような長話が、見えも聞えもしないところで、きれいさっぱりみんなのことが忘れてしまえたら。でもあたしは気が小さくって、引っこみ思案だから、引っこみ思案だから、気がとがめてしかたがないだろう」

チエコブ そのとおり、ぼくはゆめみる役者だ。ほぼ五千年、せりふのない端役と食うためのアルバイトを往復して流れてきた。もしかしたら飯繩美喜、ぼくのことを負け犬だと考えすぎているの

ではなからうか？

飯繩美喜、脚立をチェコブに見立てる。

美喜 チェコブはね、脚立ね。ま、体が固いでしょう。他人に頭の上へ乗ってもらうため生まれできたのよ。

チェコブ ほうら、きた。これが飯繩美喜だ。ぼくの女優さんが、やっときてくれた。(自分の世界で、飯繩美喜を想像しているだけ)

美喜 (脚立の上) あなた、生活がいけないんだわ。思いきって変えちまいなさい、身の回り。舞台の上でだけ、水々しく立回ろうったって、土台無理よ。

チェコブ 身の回りを変えるには、お金がいります。

美喜 それがもう心のやせている証拠。お金は問題じゃないわ。

チェコブ ぼくには、やはり、貧乏からぬげだせ、というふうにか聞えなかった。ぼくは、ぼくの舞台から貧乏を追放するために舞台を激しく豊かにするために、ゆめみる努力を自分に課したのだった。他人から芝居のことで忠告されたのは、この五千年、この飯繩美喜の一言三言。ぼくは無視されている。ぼくにはダメすらでない。

美喜 ……「いいこと、かんじんなのは才能のきらめき、それがどういうことか、あなた知ってて？」(第二幕、エレーナ)

チェコブ あれ、もしかしたら、飯繩美喜の発言、ぼくに芝居をやめろ、と……、

美喜 そうね、やめられたら、やめたほうが。そうね、やめられなくても、やめなさいよ。

チェコブ なんてすばらしいんだ。飯繩美喜が、ぼくの女優さんが、

ぼくに口をきいてくれた。

美喜 わたしにも、光からさえぎられた時間は、きつうくあった。でもわたし、日陰者根性はこだしにした。こだしにすれば、魅力よ、日陰の花、トゲのやさしいサボテン。

チエコブ 飯繩美喜は、ぼくが役者の器でないことを自覚させようとしている。だけど、ぼくは役者をやめない。ぼくは、ゆりかごから墓場まで、シャレコウベで酒を酌み、ヴェニスの水辺を嫉妬に狂った權でたたきながら、夢でぼく以外の役者はだれもかれも殺害してまわって、死体の鼻をそいでやって、現実では演劇のために快活であるのだ。

美喜 それでも、わたしは殺せない。ぬばたまの、と枕言葉をのどへおしつけられたけど、わたしが真に迫まってデズデモーナの死顔そっくりなので、なるほど巧いともてはやされるわけで、とあなたは急にわれにかえる。

チエコブ 飯繩美喜は殺されるかわりに、ぼくに恋されることになった。

美喜 だめよ、たとえ夢でも、荒唐無稽は許されない。舞台には観客と馴れ合つてのみ成立するある種の論理があるように、チエコブの夢にだつて、もしかしたら、あるいは実現可能か、という範囲での条件づけがなくては。わたしとあなたの間には触れあうものはない、なかった。

チエコブ ぼくは悶々としてきた。衰弱して気持がたかぶり、寝ても起きてもゆめみることになった。つまり本物の夢を睡眠中見るにまで至った。……睡眠中の夢で、ぼくはアントン・パーヴロヴィツチ・チエーホフだった。革命前のロシアである。十九世紀末で

ある、呼吸をとめねばならぬ、どんなふうにも動いてはならぬ、……（ジー、パシヤツ）そういう写真の焼きつけ方から、ぼくはチェーホフであることをゆめみ、それらしく似せつけた。ぼくはせっかくチェーホフになったのだ、女優飯繩美喜はせっかくのチエーホフとますます親密でありたいだろう。それなのに飯繩美喜は手も振らず遠ざかってゆく。

おお、『三人姉妹』幕切れ近くの音楽。オーリガ。

美喜 ……「音楽は、あんなに澁刺として、ためらいがない。あれを聞いていると、生きてゆきたいと思うわ！ まあ、どうだろう！ やがて時が去り、わたしたちも永久にこの世にわかれて、忘れられてしまう」

チエコブ ああ、やっぱり、さようならばチエーホフのドラマだ。アントン・パーヴロヴィツチ・チエーホフのドラマは、すべてかなしい夢だった。……（ポールにのぼってみたりする）役者を志したころ、ぼくたち、人間の行動にはかならず原因があると教えられたものだ。ぼくのかなしい夢の原因は、心臓のあたりをしめつけるようにかきむしるようになって眠るくせにある、これがぼくの推定。心臓をしめつけて眠る原因は、ぼくの思い出ときたら後にも先きにも学生時代にしかないのだが、飯繩美喜からきびしく失恋して胸をいためたことにある、これがぼくの推定。失恋した原因は……、

美喜 ……「彼のもっているものときたら天にも地にも学生時代の思い出しかなかった」、……「チエーホフの手帳」ね。

チエコブ だめだ、自分の口からは告げたくない。（涙がこみあげてくる）

美喜 涙は不純な欲望のつやだし。泣きすぎるとものもらいできるわ。

チエコブ へ、他人の私事へ立ち入るのは、けっしてよい趣味だと申せませんね。

美喜 つけあがらないで。チエコブでも泣くことがあるのかな、と好奇心おこしただけ。

チエコブ 昨夜見た夢が辛くてね。(彼ははにかむことが得意な人間である)

美喜 夢？

チエコブ ぼく、ついにチエーホフに会えましたよ。二人で立小便の競争したの。夜が明けるまで勝負がつかなかった。なんか話しかけたかったんだけど、二人の聖なるもよおしを言葉で乱したくなかった。チエーホフはステッキによりかかったまま、やがてぼくの夢から薄くなつてゆきました。

美喜 (装飾的な笑いをこれ見よがしに撒きちらして) ほらね、わたし、お産のすんだにわとりのようにだつて笑えるのよ。あなた、どっちを頭にして寝たのさ。足の方向の日本地図、昨夜大水害であばたにされたわよ、きつと。新聞に出てるわ。せめて新聞ぐらい読むものよ、あなた現実からも取りのこされて取りかえしのかぬ……、

チエコブ ……現実、事実、事後確認。どうにもうすぎたない話になった。これはぼくの飯糰美喜ではない、これはぼくのチエーホフではない。

美喜 その人、チエコブが会った人、チエーホフではないわ。不潔よ。チーホフがそんなこと、するはず、ない。

チエコブ ぼくの口もとから胃袋のあたりまで一気に冷えてきた。飯繩美喜にとってチエーホフは神様だったからだ。ぼくはちがう。ぼくは通称チエコブでも、チエーホフを必要以上に絶対視しない。かつて飯繩美喜は、チエーホフの妻であり女優であるオリガ・クニツペルが流産したことを書簡集で読んで、恐れおののき気絶した。

飯繩美喜は、まったく恐しいほどはでやかに気絶する。

チエコブ (ひややかに見ながら) この女は、オリガ・クニツペルが流産したことではない、チエーホフにも性の交渉があった、それに耐られなかったのである。

ジェット機の暴力。

グレイ・フラノの男が一人飛び出してくる。社長と呼ばれている。

社長 (どなる) ボリュームを落としてください。あなたに、決定権はないんだ。(舞台裏的景を閉じて黒一色)

チエコブ やあ、社長、おせいじゃないか。

社長 (時計を見て) まあまあだな。はい。遅刻の罰金三十五円、おつりはカンパ。……(手帖にメモする) 君たちだけかい、みんなお見限りだね。

チエコブ かあたんもいたよ、そこいらに。今日の研究会の予行演習やってた。

社長 毎回毎回、出席者も減ってくるしき、ぼく、今日は解散動議出そうかと……、

チエコブ あわてるなよ。なりゆきにまかせようじゃないか。やめたきゃ、一人一人勝手だ、この集まりへこなきやいい。しゃつちよ

こぼるのは、この集まりらしくないぜ。

社長 しかし、どうも、ぼくに責任が全部おつかぶされているように……、

チェコブ よせやい。本音吐けよ。社長だけの問題だろ、社長が会を放り出したいからだろ。

社長 やっぱりね。そうとられると心配してはいるんだ。……うっとうしいな。

チェコブ ぼくはうっとうしくないよ。あっさりしたもんだ。

社長 どうしたの、飯繩さん？

チェコブ 徹夜の仕事でくたびれたんだってさ。寝顔は、無邪気だね。

社長 飯繩さん、うたた寝は体に毒ですよ。……（チェコブに）起こしてあげなよ。

チェコブ 自分でやんな。この人、予想しない時、体へ触られるとジンマシンが出るってさ、最近。

社長 自分で予想した時は、大丈夫なのかい？

チェコブ うん。ほんとは、だれへも、いつでも、そなえあり、らしいよ。だからこの人にジンマシンが出たのを、見た奴はいないのさ。

社長 飯繩さん、起きてくれませんか。そろそろ研究会にとりかかりますしよう。（ゆさぶる）

かあたん、登場。

かあたん そのままにしてあげなさい。さあ、社長もチェコブも、お昼寝の時間よ。子供の寝かせかたのこつも、子供の想像力を刺激し、自発性を尊重することから。稽古しましょう。……（電飾、

ちらちらしはじめる。社長、チェコブは幼児化につとめる)床へ横になるの。お手々をね、お目々の上へのせるの。みんな。お目目をつむっているかしら？そつとお手々をはずすの。なんか見えた？

社長 見えない。くらい。

チェコブ お目々の裏、あかいよ。

社長 くらいよ。

チェコブ あかいよ、あかいよ……、

社長 くらいよ、くらいよ。……、

チェコブ あかくて、くらいよ。

社長 くらくて、あかいよ。

かあたん、うたう。

ねむい、ねむいよ、

お目々がねむいよ、

お耳がねむいよ、

お鼻もねむいよ、

お口もねむいよ、

お手々もねむいよ、

あんよもねむいよ。

ねむい、ねむいよ、

みんなねむいよ、

ねむくないのはおへそだけ、

さめているのはおへそだけ。

良とお念の二人が登場。その場の空気へなじもうと、横に

なってみる。うまくゆかない。

お念 ねん、ねん、ねむの木、首つりねむの木。わたし、ねむくないや。(飛び起きる)

良 ねむくない、ちつとも。(飛び起きる)

お念 ねむりたくない。(はねて歩く)

良 ねむってなんかいられない、ぼくたち。(はねて歩く)

社長 台無しだよ、君たち。もつとかあたんへ協力しなきゃ。

チエコブ でも、お念と良らしくていいな。眠りたくない。眠ってなんかいられない。なつかしの季節は、良とお念のために、まだまだきんきら金無垢、おいしそうな金無垢、ほら、湯気まで立っている。そう、怒るなよ、お二人さん。からかったつもりじゃないから。

ジェット機の暴力。電飾、消える。社長、はげしい身ぶるい。みんなもそれぞれ、身を起こす。

社長 眠ってはいられない。もつとだねえ、もつとつきつめて、煮つめて、しぼりあげた結論が、しかもだねえ、火急的すみやかに急ぎ急いで要請されている、われわれのこの会が解散をせまられている、解散だよ、われわれの会は。君たちにはねえ、危機感覚の絶対的欠、欠、欠、欠……、(どもったのである)

良 (ひきつき、つぶやく) 欠如が、ない。

お念 欠如が、ある。

良 二重否定のつもり、それ？

お念 二重否定は、つまり肯定よ。

良 いやいや、やっぱり否定をあらわす時もあるんだ、特別用法だけど。

お念 それにしても、欠如はあるんでしょう？

良 ないんだ。

お念 あったはずだがなあ。

良 あるとは云えない。

お念 ないとは云えある。

良 ない！

お念 ある！

良 ないある、ないある、どっちだい、いったい？

お念 あるない、あるない、わからないかなあ！

良 わからないとは云ってない、わかるさ、わかるけど、もつと具体的に……、

お念 なにを？

良 なにを！

美喜 (声を立てて笑っていたが) ああ、笑うと芯からくたびれる。

社長 (意気上らない) ぼく、どうしてどもつたりしたろう？

チェコブ 一種のアレルギー症状じゃないの。危機アレルギー。

……このアレルギー、このエネルギー、……社長だけで、君一人だけで燃えすぎるから、どもるのさ。

社長 駄弁は禁止だ、どうぞ。

美喜 くちびるが荒れて、もの云うと痛い。乾燥しすぎてるのね、ここは。……もうすこし、しめっぽくやろうよ。わたしたち、一応の目的は果たしたんだから。よく続いたもんねえ、何年になるかしら？

チェコブ ほぼ五千年。(ボールにのぼっている)

美喜 いろんなことがあったわね。わたし泣けてくるわ。

お念 泣けてくるの、反対。お通夜のカンヅメみたいな議事進行、
反対、空気、かえましょう。

良 そうだ、お念が正しい。この会がつぶれるかどうかの、瀬戸際
じゃないか。

かあたん 冷静に観察した結果を申しあげますけどね、良は軽佻浮
薄よ、すぐお念へくつついて。お念もそうよ、そんな絶体絶命のお
化けは、いいかげん思い出のくずかごに捨てなさい。解散ごっこは
きらいよ。わたし、研究会をつづけたい、今日の。……四歳ごろまで
の子どもはひどくお喋りです。だけど、どんなたわいのないお喋
りも、非現実の方向へだけむけられるものではありません。むしろ
子どもは、ありあまるお喋りをめちやくちやにぶつつけあい、現
実と切り結ぶ接点を捜しているんですね。子どもは子どもなりに
言葉で現実には作用したい要求もっています。……(タバコをとり
だす良に) よしてつたら、タバコは。子どもは、匂いに敏感です！
良 またしかられた。……お念、また寝ようか、ぼくらも。

お念 いやらしい。あなたとなんか、だれが寝るものですか。(ア、
ハ、ハ、ハ、と笑う)

良 意味がちがうつたら。かあたん、子守歌、またうたってよ。

お念 ね、良、あなたほんとに。右顧左眄しすぎない？

良 しかし、ぼくは、その時々を誠実に決定し、自覚的には行動し
ている。多少樂觀的すぎるけどね。……(みんなにア、ハ、ハ、ハ
と唱和されて) かあたん、電車ごっこしようか。ぼく、スリだ。

美喜 わたし、よっぱらい。

チェコブ ぼく、無賃乗車。お念は婦人警官。

お念 どうしてわたしが権力の手先きに。婦人警官反対！

社長 多数決でゆこう。お念の婦人警官に賛成の人、手をあげて。

……（お念以外は賛成）大衆の圧倒的要望だ。こたえてくれるよな、どうぞ！

かあたん わたしはなにをするの？

チエコブ かあたんはかあたんさ、やっぱり。だれが、かあたんの子どもになるのかな？

かあたん だめよ、こういう時、子どもは子どもへなりたがらないわ。

チエコブ かわいそうに、かあたんは子どもも生んだことのないかあたん、やっぱり。社長は車掌、これもやっぱり。

社長 よしきた、どうぞ！

電飾。俳優連も入ってきて、電車ごっこに加わる。

子どもの電車のお通りだ、

レールへ乗ってはいるけど、

レールにしばらくいたら、

レール違反。

あっちへむいたらあっちへゆけ、

こっちへむいたらこっちへゆけ、

気のむくままに走るけど、

うしろむきには進めない、

子どもの電車のお通りだ。

子どもの電車のお通りだ、

レールへ乗ってはいるけど、

レールにしばられたら、
レール違反。

脱線。電飾もショート。ジェット機の暴力。

耳をくすぐるのは、どこの大学の時計台の鐘だろうか？

登場人物は、当然、幼児とはちがう段階へ化ける必要がある。
る。

合唱。

冬くれば風邪ひき、

夏くれば食あたり、

立身と出世のために、からだやせる、

にせものたち、

おお、わたしの大学。

―― 頹廢だ、ぼくたちにはもっと建設的な歌がにかわしい！

―― 頹廢だ、だが建設的な歌はつまらない！

―― つまらなくても、

―― どんなにくるしくても、

―― つらくても、

―― 建設的な歌！

―― 秋去ってこがらし、

―― 春呼んで吹きつのは、

―― 学問と平和のために、からだもえる、

―― わかものたち、

―― おお、わたしの大学。

俳優連、大笑いして退場。

社長 許しがたい。なさけない。笑ってすますつもりか。笑うなん

て、肉体的弛緩の一種だ、あくびのようなもんだ、伝染するからこわいんだ。会議にすがりつけ。べったり、対策をたてよう、火急的すみやかに、急ぎ急いで。時間がかかりすぎると、それだけ血も多く流れる……。

良 いらだつなよ。……（彼はひたいの髪をかきあげるくせがある）提案するんだが、解散問題は次ぎの集まりまで延期しようや。くたびれているんだ、みんな。もうぼくたちの頭の中には、想像力を刺戟するピストンがないよ、オーバーホールしなきゃ。とりあえず、なんか食って……、

美喜 ちよつと待って、良。言葉使いは気をつけましょうよ。食って、は下品下品。

良 あなたなら、なんとおっしゃいますかね？

美喜 せめて、食べて。

良 じゃあ、ぼくのせりふ食べないで、くれぐれも。……ぼくが提案したいのは、とりあえず、食べて、眠って、もう一度新鮮な頭で、と……。

チエコブ この空腹、この立腹、……どうだろう、みんな腹を立てて、ボールテージあげようか！

社長 がんばろう。結論は、すぐそこにある。それをひきだしさえすりゃいいんだ、いつきよに、……ブレイン・ストーミングの要領は、考えを抑制しないこと、否定しないこと。想像力が関連性において、うながすものは、むしろ、みだらなくらい唇へのせてゆく。……おもしろいよ、眠ってなんかいられないよ、金になるよ。

なあ、みんな、睡眠の時間は、この社長へ奉仕してください。

チエコブ この睡眠、この冬眠、……テンポをあげて議事続行。

(とすぐはずかしくなるのだ)

かあたん 今やっている商売の片鱗みたいなもの、この会へ持ちこみ混乱させないで、社長。わたしは歌がうたいたい、もう議論はたくさん。

社長 押えつけない、流れを押えつけない、かあたん。(かあたんの肩を抱く)

かあたん 失礼ですけど手はずしてください、慣れていませんので。

チエコブ この潔癖、この鉄壁、……言葉によって苦しまない連中の老化現象。

かあたん わたしはうたっていれば幸福よ、子どもたちのひとみ明るく、雪どけの河があふれ……、

チエコブ 春がきて、ねこやなぎが芽をふくと、わたしはねぼけ声であうたう、青春を、にぎびを ……この抒情、この過剰。

社長 集中だ、どうぞ！ ……ねえ、かあたん、だからこそだよ、ぼくたちが再び健康にだれはばかりすることなく、ぼくたちの歌を公然とうたえるようになるためにこそだよ、こうして必死に討論をつづけているわけだよ。現実の苛酷さにまけ、疲労に身をまかせてはいけないわけだよ。

美喜 もうすこしねこなで声だと、真実感増すな。

お念 まぜつかえさないで。会がつぶれるのよ。

かあたん 喉さえつぶれなきや、うたえもするし、どなることだって……。(意味不明に叫び声をあげる)

良 かあたん、どうしたんだい？ 話を本筋にもどそう。

かあたん ほう、本筋があったの？ 焼鳥にとっては串が本筋。だ

けど、串は食べられないじゃないか！ ……ああ、酒でも一杯、ひっかきたいよ。…。(ア、ハ、ハ、ハ、と唱和され) しまった、これは禁句。子どもは匂いに敏感です！

良 後でつきあうからさ、ヒステリーはやめな。決定的瞬間をそう他人へさらすもんじゃないぜ。

かあたん どうせ口先きばかり。お念がこわいんでしょ。

お念 良がどうしてわたしをこわがるのよ。わたしと良の間になんかあるとでも云うの？ とんだお門ちがい。

かあたん 御同情感謝します。すべからく、すべたらしく、わたし良とはけんかしたくないから。

良 実のところ、ぼくはやはり現状分析に片手落ちがあると思うんだな。たしかにむこうの側からは解散を強いられている。しかし一方の事実はどうだろう。この集まりの内部にこそどすぐらい矛盾はうずまき、それを見て見ぬ振りをつづけるぼくたちに、崩壊を予想するムードが、いや崩壊を期待するムードが…、

お念 ちがうちがう。むこうの側からの重みが強まって、出席できなくなつた人も若干は出た。

良 お念に反対してはなんですが…、

社長 反対。否定はアイデアを閉ざすよ。

良 むこうの側からの重みは今も昔も変わりはない。はねかえすだけの力を、ぼくたちはどこへ忘れてしまったかねえ。

社長 この際、良の感想はとりあげるに値しない。

良 発言を封ずるのか！

チエコブ 社長、いま何キロある？ 八十キロにはまだならないだろうな。心臓に負担をかけすぎないようにしな、脂肪の重みで。

うん、ふとったね、昔のおもかげないな。

社長 なにが云いたいんだ？

チェコブ いやらしくなったってことだよ。

お念 肉体的変化は、絶対口にしないでください、この集まりでは。

良 この前科者の巣窟ではか。……（ア、ハ、ハ、ハ、の唱和）みんなの意見を聞いてみてくれ。ぼくは多数に賛成するよ、多数を信じる。

社長 腹を立ててるのかい？ 腹立てたからって意見にまで弱気を見せちゃ感心しないなあ。まったく良も弱気になったもんだね。

……かまわないから、もうすこしつきあげてくれ、どうぞ！

チェコブ そうだよ、あのころの良はすごかったからな。もつと生きびしい直球をびゅんびゅんほうりこめよ。

良 自分でやれ。君だって、昔にしがみついたためにだけ、ここへきているんだろう。思い出のトゲをばらまけ、自分で。

チェコブ ぼくは人真似だけだったからな、特にチェーホフのね。今や、だれのまねをしているのかさえわからない。まねのまねかもわからない。……（飯繩美喜に笑われ）昔からぼくのトゲはまる

かったよ、うしろには月明りのうすぼんやりした夢の道、しらじらふしだら、さまようてきたぼく。

お念 まねだ、まねだ、と強調するチェコブにあやかりたい。自分の真の考えをかくし、解体し、あいまいにする防御作戦！（この人は、マリリン・モンローふうに腰を振るくせがある）

良 真の考えがあればね、チェコブに。……そういうお念のそそっかしさが、ついうれしいね、ぼくは。

お念（怒り心頭）もうがまんがならない。甘ったれないですよ。す
でにいいかげんやってきたじゃないか、あやまりは涙がでるほど
知りつくしたじゃないか、手あかにまみれたかけひきはごめんだ
わ！ わたしはこれ以上けっしてひきさがらない、もうわたしの
うしろに道はない！ 現にある組織をねばり強く再強化し、前へ
よこたわる隘路をおめざせず切りひらくべきだった。

チェコブ この隘路、このアイロニイ、……この皮肉、この苦肉の
策は、……この饒舌、この情熱、……この熱気、この熱情あるの
みか。

社長 ぼくはお念の単純かつ素朴な心情論では、満、満、満、満

……、（この人、どもりすぎる傾向がある）

良（ひきついで）満足できる。

社長 できない。

チェコブ できるかな。

社長 できない。

お念 できそこない！

片隅のゴンドラへ、坂巻太郎がだしぬけに浮び上がる。彼

はいつも綾取りのヒモを手離さない。

良 だれ！

坂巻（うろたえたが）坂巻太郎。

社長 スパイじみた真似しておどかさないでください。しばらくぶ
りですわね。

坂巻 ご無沙汰しました。今日もね、実は当分休ませてもらおうと、
その連絡にだけ、ちょっと足はこんできました。

社長 なんかあったんですか？

坂巻 別に。

良 理由はなんだい、休む理由は。

坂巻 別じゃないですね。思いつきを云ったってしようがないでしょう。それじゃあ、みなさん、お元気で。

ゴンドラに乗った坂巻太郎が空へ飛ぶ。

良 追いかけてみようか。

社長 ほっとけよ。あれがいつもの坂巻太郎のやり方なんだ。あれで結構スリル感じてるんだから。あとで重要になる人物だよ、彼は。

かあたん わたしたち、坂巻さんがもどつてきやすいように、もう一度、研究会です。……お昼寝の時間よ。子守り歌うたってあげる。

かあたんの子守り歌。一同、横になる。

かあたんの子守り歌と二重唱で、坂巻太郎が、うたうように語り出す。

ある日、

ひそかに、でたらめに、

落ちつきなく、辛辣に、

あるいはつとめてしおらしく、

ずるけた眼をこすりあげ、

あなたに、

あなた方に、うちあげたくなる。

にごりの夜について、

しゃがれ声の鬨について、

げすっぽい学問について、

愛の脱税について、

いろんなことをくりかえし、

くりかえし、あなたへ、

あなた方へ、うったえたくなる。

ようするに、

時は今、今は昔、

運動は激発と飛躍の時、

闘いの日々がありました、あります。

かげろうのように、

陽光の下でしか燃えあがらない青春を、

人間の前史を、

よちよち歩きを、頭でっかちを、

うめき声のなつかしさを、

すぐに変色するかなしさを、

あなたと、

あなた方とたしかめかえしたくなる。

実際に集録した、学生たちのシユプレヒコールのうずま

き、例えば「……われわれは、最後まで闘かうぞ！」のよ

うな。その流れの中に、新見朝子が花束を持って登場。い

わゆる学生的面影はこの人の姿恰好に一番色濃いだろう。

舞台前面を、大学のキャンパスのどこかに見立てようか。

坂巻 朝子さん。

朝子 だれ？ ……（ゴンドラから降りた坂巻太郎に）おどろいた。

どうしたの？

坂巻 用があるんだ。だけど、その花こそ、どうしたの？

朝子 買ってきたの。これそばにおいて試験うけたら、先生、わたしからはなれないんだもん、閉口しちまった。

坂巻 花を買うなんて！ だれかからささげられたものなら、まだしも！ なんのために、どこで買ったの？

朝子 またはじまった、ねちねち。おかしいわ。わたし試験で集まりにすっかりおくれちまった、……すみません、閑ないわ。

坂巻 今日も、またまただめですか。……（ひややかに）はあ、そうですか！

朝子 いま何時かしら？

坂巻 （腕時計を見る。つぶやく）だめですか、今日も、またまただめですか。……（傍白にはしないで）だめだなあ、もうだめだよ、あのころはデータ入りの時計がなかった。

朝子 急いでの、わたし。ねえ、あなた待っててください、一時間、ううん、一時間三十分。

坂巻 朝子さんの指示にしたがうよ。待ってたほうがいいんですよ？

朝子 （くつつとほほえむ）そりゃ待っててもらえると、ありがたいけど。

坂巻 ぼくは結局ここで待つことになるんですね。……綾取りしてましよう、川、船、つぶみ。

朝子 （肩すくめる）今日、寒い？

坂巻 多分、あなたほどは寒くない、ぼく、慣れてしまったから。

朝子 しかたないじゃない。ねえ、あなた、わたしのどこが好きなの、そんなに？ ……（彼は爪を噛むくせがある）考えないで、すぐこたえてくださらなきゃ。

坂巻 新見朝子。名前に一番惹かれるな。新しく見る朝の子ども。

朝子 (口早やに) わたしだって、あなたとだけの時間がほしいのよ。でも今のうちしとげなければならぬことだって、たくさんある、あるような気がする。わたし、そういう自分から逃げたくない。理解してくださるわね、……わたし、あなたの理解に甘えていたいの、あなたはわたしの大切な人よ、信じてね。

お昼寝の時間にあきたチェコブとお念が、しのびよってき
ている。

チェコブ 信じてね、信じて、といくら念を押しあって、信じさせるのは土台無理だ、君は女だからね。

朝子 あら、チェコブ。盗み聞きは愚劣よ！

チェコブ ふうん、それで君たちついつい別れることにしたの？

朝子さんに新しい恋人ができたの？

朝子 誘導質問、下手になったわねえ。それでもさぐりのつもり？

お念 生まれてからこのかたカンニングのような曲ったこと、わたし一度だってしなかったと云ってもほんとにしないのよ、チェコブったら。……試験でいっしょだったのよ。したらね、チェコブ、わざとあたりに聞こえよがしにつぶやいて、「隣りに女がすわると顔がのぞきたくなる、顔がさまになっていくとくどきなくなる」、……みんな笑うでしょ、それを幸い、堂々わたしのハートへつんのめってきてね……、

チェコブ ぼくはね、カンニングすることで、低脳教授どもへ仕返ししているんだ。

お念 あなたの大先生は、カンニングしなかったらうな。

チェコブ まさか、だれだってやったさ。

お念 へえ、あなたのチェーホフがカンニングねえ！

チェコブ なるほど。当時のロシアではカンニングが犯罪視されなかった、しかるが故にチェーホフもわざわざ試みる必要がなかった。……（うそぶく）春はまだ装いもとのわぬのに、「あっちで

も恋、こっちでも恋、おお、まどわしの湖よ」（かもめ『第一幕』）

坂巻 カンニングはいけないな。盗みのはじまりだ。市民的モラルへは一応服する態度でのぞみたいな。

チェコブ あやまります。一応服するか、いい言葉知ってますね。

朝子 お念も会には出るでしょう？

お念 もちろんよ、わたしはとっくに出席しているべきだった。

チェコブ 君は、トレープレフ君？

坂巻 そうだな、ぼくも傍聴だけはしようかなと考えただけど、例の秘密結社でしょ、生ま暖かいでしょ、ほこりっぽいでしょ、それに……、（朝子の花束をむしっている）

朝子 花をいじめないで！

坂巻 （しぼんで）ところで、トレープレフって、何者ですか？

ジェット機の暴力。

舞台奥では、社長の猛烈な演説。良の猛烈な反撃。シルエ

ット。ちっとも聞えない。四人と俳優連がこの景に加わ

る。ジェット機が飛び去って、舞台は明るくなったのに、

黙劇はつづいている。

朝子 なんのまね、それ、社長？

社長 （自分に気づき、息をのむ）ぼく、どうして、……どうしてぼく、言葉を失ったんだろう？

良 茶番だ、ばかばかしい、ぼくは認めない、こんな決議無効だ、

社長横暴、ぼくはもうかえる！

—— どこへかえるの？

—— ぼく一人で、家かえれない。

良 頭の中がからっぽだ、ぬけがらだ、ぼくたち！

朝子 しっかりしてよ、良。なにが起きたのよ、いったい？

良 ぼくには聞くな！

美喜 (泣きだして) なさけないの。こんなことってあるかしら。

わたしくやしいの。くやしいから泣けてくるの。涙がこぼれる

の。見てちょうだい、わたし泣いているのよ、くやしくて、自分

がくやしくて、くやし涙、こんなにたくさん流しているの……。

かあたん すこし説明が多すぎるようよ、それに子どもはもつと具體的に感覚的に云ってくれるわ。

俳優連も「決議無効」「解散反対」を叫び合い、泣き出す。

社長 ようするに解散決議がたった今とおったんだよ。ぼくたちの

この集まりは、これでもう空中に夢と散りぬるをわかよたれ……、

お念 まさか、そんな！ わたしも気絶すべきだった。お昼寝の時

間へもどって、もう一度やりなおすべきだった。(わざわざポー

ルの上で、気絶して、たおれる)

チェコブ かあたんも動議に賛成したの？

かあたん ええ。わたし、もともと解散ごっこはきらいだから。

社長 まるで傍観者だね、かあたんは。

かあたん 積極的傍観よ、正しくは積極的日和見。わたしたちには

さしせまった要件が欠けている。それにうろたえ、うろ覚えの真

剣勝負をいどむ。

朝子 花瓶なかつたかしら？

チエコブ だれかが黙って持ちかえったんだろう、……この会には失せ物が多すぎる。自分まで失った奴もいる、ぼくをはじめとして。

——（童詞ふうくに、声そろえ）眼をさませ、飛び起きろ！

良 陰謀だ、ダレてるぞ！ 社長、君はうしろをむいて安易にいいさいよく今日をしのいでゆくことだけに懸命だが、ぼくたちにはまだ先きがあるんだぞ。ずっと歩みつめねばならぬ明日が開かれているんだぞ。この集まりを捨てて、この核を捨てて、どこへむけて放浪しようというんだ。こんな会、おれのほうからやめてやる、……やめた、やめた、さよならだ。

社長 自己矛盾じゃないか、良こそ。やめるなんていきまくなよ。

—— 逃げるのか？

—— 敵前逃亡。

—— 銃殺しろ！

かあたん よくないわ、良の態度。決定的瞬間はわたし以外へさらさないで、おねがい！

良、退場。かあたと俳優連、それを追いかけてゆく。

チエコブ いいね、全く、おちぶれたね。不出来不出来のおできの

小踊り、集まりの数を減らした責任とって、社長も首さね。

社長 罰金ものだな。五十円くらいだろ、残りはカンパ。ぼく、言葉が過ぎたかな。（彼はメモをするくせがあるのだ）

チエコブ 言葉がないところで決まったんだろう、解散は。

社長 とにかく、説得してみよう、連れもどそう。

チエコブ そして、また無限のくりかえしをつづけるんだね。

社長 死人の後追いだ。後を頼むかな。君が会の音頭取ってくれ、

どうぞ！

チエコブ 死者を美しく葬う。恥しいね、ぼくは超積極的傍観者。
社長 飯繩さんにおねがいできませんか、どうぞ！

美喜 お世辞はぬきにしてね、どうぞ。わたしの出番はなかったみたいよ、今日は。退場します。せめて退場だけでも、あざやかにあつさりと、……ほら、こんなふうにおつかれさまでした。

飯繩美喜、退場。

チエコブ ぼくの女優さんは退場した。飯繩美喜からはなれてぼくはひとときもすぐせそうにない。ゆめみる時こちらに都合よく意識的に構築するのはやめにしよう。ただただ飯繩美喜にひきずられてゆこう。追いかけてよう。追いかけてここそ夢の本質だ。ぼくはローラースケートをはいたカモシカのように飯繩美喜を追いかけてよう。

チエコブ、退場。

お念、むつくり、起きあがる。

お念 みんなは、どこ？

社長 みんなって、チエコブのことだろう。飯繩さんと追いかけてこ。

お念 こうしては、いられない。……（コンパクトをとりだし顔にパフ）わたし、チエコブに頼みたいことがあったの。こけの一念、岩をも通す。わたしは念力のお念。じゃ、またね。

お念、退場。

社長 決議なんかするんじゃないかった。連れもどしにゆくからさ、朝子さん、後の責任者になつたください、どうぞ！

朝子 わたしは、事情がまだよくのみこめない。おくてですから。

……辞退します。個人的にもこれからはすこし勉強のほうへ比重を移したいと考えてますので。

社長 困ったな。……(坂巻太郎のせきばらいに) じゃ、本物の沈黙を守っているところを買い、後の祭りの責任者に坂巻君は！

会の敗北的な現状をプラス面へ転化させるためには、坂巻君の誠実さこそ……、

朝子 当人を前にして、あっけらかんのごきげんとり。ああ、わたしたち、今日もまたイージーすぎる。

社長 努力してみてください。会の運命は、君の双肩にかかってます、どうぞ！

坂巻 わからんな。会は解散したんでしょう。

社長 たとえ解散しても、絶対に解散出来なかった歴史をぼくたちは歩んできました。解散したのにルールは居すわり、居残って、それがわれわれを若干保守的にした。(ア、ハ、ハ、ハ、と笑う)

朝子 反対します。第一、この人はアルバイトで忙しいし……、

坂巻 アルバイトはなんとかなるけど、ただなにがなにやら、雲をつかむような話だな、ぼくには全然。

社長 君はハジカ前だから、それで結構、結構。高ぶらせなくても君のポリシイは。

坂巻 正直者をからかわないでください。それに、社長ってあだなまさかつけられないでしょうねえ、ぼくごときに。ぼくはシヤバに出たって、社長のように成功的な人生は送れませんよ、送りません。

社長 古い亡者を乗りこえ、生き生きと新人が育つ、どうぞ！ それでは、すこやかにたくましく。いざれ、また。

社長、芝居の裏方的に脚立をかついで退場。ゴンドラも、消えた。

大学の時計台の鐘。

空漠とした舞台に、新見朝子と坂巻太郎の二人だけが残っている。

朝子 太郎さん、あなたうれしいんでしょう。

坂巻 暗いねえ、雪がきそうで。

朝子 わたしたちのリーダーになれてうれしいんでしょう。どのくらい、うれしい？ このくらい？ このくらい？ このくらい？ このくらい！

朝子は腕をひろげ、だんだん大きな形をつくってゆく。そ

して、その腕の輪の中へ坂巻太郎が入る。

坂巻 ぼくはうれしい、ぼくは朝子さんへならんでも素直にうちあけられる。ぼくはうれしいんです、こんなさやかなゲームでも、音頭取りは音頭取りだからね。ぼくは興奮をひやすすべを知らないようだ。験してみたいことがたくさん両手からこぼれてゆきそうで、こわくてしかたがない。……（はげしく）ぼくの場合、希望は現実の結果にひきずられて生まれてくる。

朝子 あんなかけひきじみた妥協で決まったりして、わたしなんだか後味わるい。……いいの、やってみたかったのね、なにかが。

坂巻 運動へ対する漠然としたあこがれはだれにもある。ぼくはただそれをぼくの現実へ一歩ひきよせたただけだ。いや、あこがれへの中和剤を呑んでみただけかな。

朝子 不健康だわ、その観念操作。

坂巻 観念操作だけではいつだって不健康さ。あるきっかけがあっ

て観念操作が実行力を持ちはじめると、健康美でかがやきだす。

朝子 意味不明の言葉は吐かないように注意して。あなた冷静を欠いているのよ、今。

坂巻 冷静でないこともひきうけるさ、いらだちが必要なんだ、世界全体に。そしていらだちをもっともつと持続することさえ可能になったら。……（にらみつけるように）どうしたの、なぜだまったの。

朝子 あせっているあなたが見苦しいから。

坂巻 あせりといらだちは区別してもらおう。ぼくのどこにあせらねばならぬ原因があるの？ぼくがどんな風にあせるそぶり見せた？なぜだまるの？ぼくのどこが悪いの？……悪いのはあなただと思う。急にだまったりするくせ、やめてもらえないかな。それから、こうして二人つきりになろうとしたり。ぼくたち、こんなところで、独善的に孤立してちゃいけないんじゃないかな。……どうして、会の仲間を避けるの？

朝子 （ふと笑う）寒いわね、雪かしら？

坂巻 おかしいんですね、ぼくのおせりが。

朝子 （ぼろぼろの凄凉）暗い、暗い、暗い手のびる。暗いシャボン玉の手のびる、のびる、のびる、のびる手をびしゃり。化粧にいつまで浮身をやつすつもり？ふくれた空に、くらい手がのびる。もう逃げようかな、もうかえろうかな、わたし一人で。……（かじかんだ指に熱い息を吹きかける）寒い、寒いわ、太郎さん。

その指を、自分の唇に湿し、坂巻太郎の唇までほこぶ。

朝子 ほしかった？

坂巻 ほしかった。

朝子 おいしい？

坂巻 おいしい。

朝子 わたし、ここから逃げだしたい。わたしはね、外国の船員さんのところへお嫁にゆきたかった、澄んだ眼がほしいの。

坂巻 無知ほどおそろしいものはないなあ。朝子さんは海の青さと眼の透明度をごっちゃにしますよ。海の男の眼はたいてい濁っている、鋭いことは鋭いがねえ。汐風に吹かれすぎたのさ、汐が眼玉をまぶしこんだのさ、……ほらね、イワシの眼だって赤いでしょう。

朝子 澄んだ眼がほしいのよ、にごりのない人生がほしいのよ、あやまちのない人生がほしいのよ。

坂巻 (潰れた怒り) そして、いたずらなくいかえしにおびやかされぬ人生！

朝子 (明るい笑い) お嫁さんがほしくなったら、わたしをもらってね、まちがえずに。

坂巻 眼が澄んでいるかな、ぼく？

朝子 わたしは愛していたいの。忘れないで、そのこと。

坂巻 澄んでいる眼は、それだけ内容がないってことかもしれません。

朝子 どうかな。見てあげる、顔あげて。

坂巻 こうですか。

朝子 おどおどした眼、かわいそうに。

坂巻 雪のひかりのかげりのせえだ。

朝子 わたしを恐れているのよ、あなたのほうがずっとわたしを好

きな証拠よ。

坂巻 まだ寒い？

朝子 毎日がくだらぬことですりへってゆく。こんなはずじゃなかった。くらい、くらい、くらいくらいシャボン玉の手がのびて、ながい、ながい手がのびて、……（雪が吹き荒れてきた）十年経ったわたしたち想像できる、あなた？

第二部

チエーホフ的馬車の鈴の音が近すぎ高まって、幕があく。

化粧机。飯繩美喜が一人。メーカーキャップをしながら、手紙

書きの様子。

美喜 ……えんえんと汽車にのり、汽船にのり、汽車にのり、船にのり、断わり切れずにバクチをやり、負け、ふゆかいになり、ほこりまみれ。それでもやつとのこと、この劇場までたどりついたのに、あなたは迎えにきてくださらなかった。どうして、あなたに会えないのかしら。わたしなんか忘れて、仕事で夢中になっているあなたの姿が意地悪く眼に浮びます。わたしはいろいろいやるなことがかりあるのに、だれもなぐさめてくれないので、今日はもう一生けんめい感情の奔流を防ぐことだけを心がけています。こんな状態が一月もつづいたら、わたしは神経衰弱になってしまふ。しめったたみとこわれたイス。裸電球のわびしさの下でメーカーキャップ。不潔な洗面所、悪臭。わたしは呑んだくれてやりたい。でもわたしはこらえています。……（と云って、酒をあびる）すさんだ、がまんのではない生活だけど、私はここにいます。

私はここにいる、と決めたんだから。ほんのちよつとでいいから、わたしを元気づけてください。つかれて、かさかさのパンになった気分をやわらげてください。わたしは辛い旅をここまで耐えてきました。もうだめです。ばらばらのくたくた。あなたはちつとも私のそばにいてくれない。いいですよ、それなら。わたしは、芝居もなにもかもやめてしまつて、マヌカンになつてやるから。化石のマヌカンになつてやるから。わたしは自分の涙で溺れ死にそうです。……(涙の一雫で封をする)キツテはもうなかつたかしら? 宛名はだれにしようかしら?

ラネーフスカヤ的飯繩美喜が仕上つた。舞台袖から、光がそそがれる。その光の輪に、あたかもそこが舞台であるかのようにこの人は溶けこんでゆく。

美喜……「子ども部屋、なつかしい、きれいなお部屋。わたし子どものころ、ここで寝たのよ。……今でもわたし、まるで子どもみたい」(『桜の園』第一幕)

ますます強さを増し、ひろがる光の輪へ、祈りのように俳優連。合唱。

やがては、はばたきた。
それまでは、

眼をあけっぴろげに、
ひらいてはいけない、
ひらいてはいけない。

やがては、はばたきた。
眼の裏へ潜りこめ、

がまんして、がまんして。
やがては、はばたきだ。
なるほど大切な仕事ほど、
あとまわしだ。

やがては、はばたきだ。
あきらめきれぬことは、
あきらめきれぬこととして、
あきらめきれぬままに、
けっして切れぬように、
あきらめきるな。

やがては、はばたきだ。
あした明日のために、

今日をごまかすな、
流れているはずの、
赤い血を忘れるな。
思い起こせ、吹き鳴らせ、
血まみれの口笛。

やがては、はばたきだ。
ひらいてはいけませんが、
とじてはいけない、
とじてはいけない。

薄眼をあけて、

あるいはするどく、
あるいはやさしく、
あるいはこざかしく、
するどく、やさしく、こざかしく、
素顔をさらそう、
それが素顔だと。

やがては、
はばたきなんだから。

真昼の幻想。祭りの太鼓。神輿をかつぐ子どもたちの「ワッ
シヨイ」の声が流れてくる。空に浮ぶゴンドラ、坂巻太郎
が乗っている。

坂巻 ……右や左の御ん方様へ。旦那様方、紳士にばばあ、お年寄
り方、お若いねえちゃん、お立ち合い衆の皆さん、諸君。……さ
あさ、寄った寄った、寄ってみてごろうじろ、いらはい、いらは
い、大売り出し。お金はいらない、お金のいらない大売り出し、
ほんとの只だよ、只是只でも只もうけ……、

俳優連、退場。子どもの祭りの「ワッシヨイ」は、これも

実際に集録した学生デモの「ワッシヨイ」にスライド。

「粉碎」「反対」等の盛り上り。

坂巻 スクラムが進んでゆく。色とりどりのヘルメットが走る。石
をなげる。ぶつつかる。逃げる。逃げない。ぼくも一気に、飛び
おりたくなる。わきの下には羽根があるような気がしてくる、小
さな黄色い羽根だけ。デモの真ん中へ飛びおりて、いや、そこ
へあたふた辿りついて、息せき切って……、

ゴンドラ、急に落下。地にたたきつけられる、坂巻太郎。

坂巻 痛い！ どうして、ぼくの時はゴンドラうまくゆかないんだろう？ ……（ゴンドラを蹴とばす、それからだれにもなく）や、しばらく、お呼びだてしてすみません。実はね、単刀直入、変な話ですけど、すこし、ほんのすこし、またお借りしたいんです。…いいえ、いくらでもいいんです、いくらでも。…だめですか。そうですか。そうですね、当り前だ、いまだき無理な話ですよ、突然では。…いいんです、いいんです、気にしないでください、ほかにあてもありますから。…もみ手をしながら、晩飯食う金がないんだ、百円借してくれ、と頼む時、その時からぼくはマヌカんだ、化石だ、石に化ける。ぼくは毎日化石だ。かせぎのない化石だ。呼吸をこらえてわたる人生。ぼくは人間をやめた。…時々考えるんですがね、ぼくはほんのどころ怠け者にすぎないんじゃないかな、と。たしかに、こうして、このカンパニアのために、アルバイトまで犠牲にして奉仕はしてますがね、そのうめあわせに、ぼくのやることといったら、借金、あるいはそれ以上のこと。…それもこれも、みんなゴンドラがいけないんだ、ぼくをもうすこし空へ浮ばせておいてくれさえしたら…、

チェコブが脚立を持って登場。

チェコブ やみくもにぼくのゴンドラ、蹴とばさないで。…百円で、すむんですね。はい、そのくらいなら、ぼく持ち合せがありますよ。

坂巻 （百円を受けとり）君のほうで貸したこと忘れないでほしいんだ、ぼく案外だらしないんだ。

坂巻太郎、むしろ傲慢に退場。

ゴンドラの下から、奇妙な声。チエコブ、蓋をあける。びっくり箱から、跳ねて飛び出すように、社長。

社長 お化け！

チエコブ たまげた、青ざめた、腰がぬけた！

社長 いけるな。ぼく、クリエイティブ関係者全員に提唱したんだ、妖怪を使つてのキャンペーン。そのウォーミング・アップさ。

チエコブ 君の出番はまだまだ。ひっこんでな。

社長 思わぬ時に飛び出すからびっくり箱、どうぞ！ 妖怪は社会閉塞化の白日夢を囓みもどす。

チエコブ これはびっくり箱じゃないよ、ゴンドラ。もしくはぼくのゆりかご、にせのふるさとへ旅立つ。

社長 お化けを信じないのかね、チエコブ。

チエコブ 言魂なら信じます。

社長 言魂っててなんのつもりだい？

チエコブ 説明できないな。説明できたら、ありがたみが失せるだろう。

社長 残念だね。君の言魂つてやつ、存外売りものになりそうだが

ね、ぼくたちの暗中模索を切り抜けるカードになりそうだがね。

やつぱりジョーカーかな。君、ぼくの仕事手伝わないかい。金にはなるぜ。……（ア、ハ、ハ、ハ、の笑い）ま、やめておこう、

君には無理だ。才能も体力もみんな売り渡してかかるのがぼくたちの商売だ。ぼくはね、もうちよつとした考えもそれが何銭につくか、一方では実になめらかに計算している始末でね。只ではものを考えないようにしているんだ。

チエコブ 社長、ぼくと君は響き合えませんね。厚い壁に閉じこ

もっていてくれ。そして、現実の高見からぼくたちの退行現象を、のほほんと見物していな。

社長 どうぞ！ どうぞ！

チェコブ、びっくり箱になったゴンドラへ、社長を押しこめる。

チェコブ びっくり箱でなんかあるものか、そう簡単に割り切れてたまるか。ぼくのためには、床にころがったまま宙づりのゆりかご。……ゆめみるためのゆりかご。風はない、空気はよどんで、お日様だけが大きく我物顔だ。……（これで真昼の幻想はおしまい。ぎらぎらの太陽が去って、舞台裏の感じの景）風は盗まれたのだ、飯繩美喜は盗まれたのだ、ぼくの女優さんは盗まれたのだ。ぼくはゆっくり過去へむかって歩む。芝居の道へふみこんだまま、二度とふめなくなった東北の片田舎の栗林の土を思い浮べながら、ゆっくりゆっくり固い床の上を歩む。……もしかしたら、あの木の陰から飯繩美喜が声をかけてくれはしないだろうか。ゆめみる。ゆめゆめ疑うな、声をかけてくれるはずだ、それにきめた。

飯繩美喜、例のように、かもめのマークの稽古用台本を片手に、登場。こんどは『かもめ』第四幕のニーナを勉強し

ているようだ。

美喜 あら。

チェコブ あら。……なんとという味気のない対面のあいさつ。飯繩美喜は、ぼくを待っていたのではなかったかも。

美喜 ……「わたしはこせこせした、つまらない女になってしまい、でたらめな演技をしていました。両手のもてあつかい方を知ら

ず、舞台上で立っていることができず、声も思うように出せなかった。ひどい演技をしているなと自分で感じる時の気持、とてもあなたにはおわかりにならない」

チェコブ　だれかが、ぼくの女優さんをうばおうとしている。きつとそうだ。トリゴリーンがトレープレフからニーナをうばったように。ぼくは、恐れを目許へ魅力的に浮べて、飯繩美喜の次の発言を待つ。

美喜　……「そうよ、あの人は舞台というものを信じないで、いつもわたしの夢を嘲笑っていました。するとだんだんにわたしも舞台を信じなくなり、勇気を失くしてしまいました。……そこへまた、愛情の悩み、嫉妬、子どもへのたえまのない気苦労」、……

(と、ここまではチェコブにだぶってつぶやくのだが) どこかへ旅行しない？ 連れてってあげる。

チェコブ　時間空間超越おかまいなしですね、もちろん。

美喜　チェコブ、それ守ったことあるの？

チェコブ　富士山にのぼりませんか。(と、ポールにのぼりだす)

美喜　ほんとに奇想天外なこと。

チェコブ　では、東京タワー。待てよ、あの天辺は風が吹いたらぶるぶるゆれるだろう。しかし、ああ、風はない、やんだのだ。ぼくのゆめみることのまずしさが、風はないのにぶるぶるゆれている。ぼくは眉がひたいからこぼれおちてしまうほど顔をしかめて考えだした。だが夢の中だ。思うようにゆかない。これが現実だと偶然の可能性であるじゃないか。演技の振子をすべて偶然がもたらす反射運動へ還元することができたら。ああ、それがぼくに行きたら。(転倒)

美喜 学習の不足ね、チェーホフへおかえりなさい。(と、稽古用台本を手わたす)

チェコブ ためいきが多すぎる。もう飯繩美喜へまかせよう、ぼくは飯繩美喜にひきずられてしか歩めぬのだ。ぼくは現実の世界でも、どうしてもイニシアチブの取れぬ処世をくりかえしてきたんだ。

美喜 飯繩ってわたしの名字の意味、知ってる？

チェコブ 狐のことでしょう。飯繩使いは狐使い。ぼくはまだ化されたことないけど。

英喜 わたし、狐に会いたいわ。

チェコブ ぼくはすでにけむにまかれていた。「ワーニャ伯父さん」第三幕。アーストロフがエレーナの話を封じながら早口に、……

「まあ、そんなびつくりしたような顔をしないでください。あなたはなぜぼくが毎日ここへやってくるか、そのわけをすっかり御存知のはず。なぜ、だれのためにやってくるか、そのわけをすっかり御存知のはず。そんなかわいらしい顔をして、あなたはすばらしい獣みたいな人だ。そんな目をしてぼくをにらまないでください。どうせぼくは老いさらばえた雀だ」

美喜 「(げげんそうに) 獣みたい？なんのことやらわからないわ」
チェコブ 「美しい毛のふさふさしたイタチですよ。あなたには生贄が必要なんだ」

美喜 イタチよりも狐のほうが、毛もふさふさしているし、たつぷり女臭い。イタチを狐にテキストレジャーしましょうよ。……イタチ、狐に変わりました。

と、稽古用台本を修正しながら、舞台奥へかけこむ。

チエコブ そんな事件が、前にあった。飯繩美喜は、まだ狐にこだわっていたのだ。東北のぼくの田舎で狐をさがすことにした。……すこし夢を語りすぎるかしら、ぼく。のどがかわいた。……（ゴンドラを井戸に見立てる） つるべ井戸の水をくもうとしてのぞきこむ、深くてくらい水面に狐の顔がうつっている。石をなげこむ、水面がゆれて狐は大げさに笑いだした。……（土俗の狐面をつけて飯繩美喜、おどろおどろ。波紋の中で笑っている） なにしる都会人にはけっしてなれぬ、土百姓風の迷信は匂いが立つほどたくわえてある。夢を信じた。やがて狐が立体化したら、それはなんのことはない飯繩美喜そっくりだった。アブラゲを一枚手にしていた。ぼくへの依頼状だと云うのだ。飯繩美喜がアブラゲに書かれた文字を翻訳して読んでくれた。（アブラゲはさっき書いていた手紙か？舞台の背景には狐面の色あざやかな投映）

美喜 古びた長靴かたつぽと、ねむたげなアンブレラが咲いている山国から、熱烈に歓迎のあいさつを送ります。このたび狐の国の国立劇場イヌ座では、あなたを当劇団の調教師としてお招きすることが決議されました。決議は固くまもりましょう。

チエコブ 調教師の資格はぼくにはないな。ぼくも舞台へのせてください。

美喜 うぬぼれないで。調教師は言葉のあやよ。観客としてあなたを呼んだだけよ。実はね、国立劇場とは名のみでね、国家補助が全然ないの。狐の国でイヌ座って劇団名もね、だからわたしのささやかな抵抗精神のあらわれ。まだほとんど未組織、というより劇団員もわたしたった一人。ま、結婚したら、劇団員も増えるわけだけど。

チェコブ 役者は一人で、お客さんは不特定多数。反道徳的すぎないかな。

美喜 狐の国ではね、すべて国民は役者である。ここでは役者であることが唯一の安全保障。もし役者でない狐があらわれたら、役者保護法に触れ、官憲の手にゆだねられ、動物園行き。動物園の狐は化けることができないでしょう。彼らは役者たることを自らえらばなかった連中なのね。

チェコブ どうしてあなたの劇団は、たった一人なの？

美喜 なにをかくそう、狐の役者本質説を否定するのがわたしの立場なんだ。役者には化けることへの屈辱が、どうしてもつきまとう。自分を別のところへおいているからね。そうではなくて、私は化ける行為者として全存在を貫きたい。そのためには個に徹する覚悟がいます。……わたしは劇団廃止論者、つまりは。十人二十人の集団より一人のほうが確実にゼロへ近いでしょう。良心的漸進主義よ。

チェコブ いくら口あたりがよかったからって、そこまで述べてはもはや危険。飯繩美喜が、魔性の女でなくなったら、もはや無意味。それに飯繩美喜は、ぼくのような人間の場合、つゆ知らず権力の手先きをつとめがちとは、つゆ知らずの体。ぼくは飯繩美喜を、ぼくの才能を認めぬ手合いを、今こそ殺害できるのだ。横っ面を張りどばし、かくし持ったコンボオで、飯繩美喜を殴り殺すことにした。飯繩美喜は、コンと一声鳴いて死んでしまった。

飯繩美喜、コンと鳴いて、たおれる。チェコブはこの時、

「かつてオセロオと呼ばれた男」を演ずる権利があるだろ

う、飯繩美喜をデイズデモーナにして。死体をゴンドラへ

入れる。チェコブも、退場。黒一色の舞台へもどる。

良が縄飛びをしながら登場。

かあたんの子守り歌が近づいてくる。

かあたん 眠いわ。おそすぎるわ。みんなは、どこかしら？ わたしに研究発表させてくれないつもりかしら？ ……ねえ、良、坂巻さん知らない？ あの人がいないと会が進行しないんでしょ、どうせ。……（縄飛びの中へ入っていっしょにあそぶ）朝子さんといっしょかしら。

良 食事かな。

かあたん いいえ。愛の語りよ、二人だけの。

良 それなら、食べながらだってできるよ、でなきゃ体が持たんも
ん。

かあたん おや、愛を語らうことと御飯を食べることが、同時に
成立するかしら？（縄飛び失敗、良にしがみつく）

良 ロマンチストだねえ、かあたんは。この愛欲、この食欲、この
チェコブスタイル、……恋愛のクリスタリザシオンは当事者より
も周囲の観察者にとさら起こり勝ちなんだぜ。

かあたん 良、電話ごっこしましょうか、二人だけの。わたしきつ
と大胆になれるわ。……（ロープの端を受話器のように）もしも
し、良、もしもし……、

良 ぼくんちの電話、故障なの。……無電なら打てるよ。トトト、
ツイッター、トトト。トトト、ツイッター、トトト……、
かあたん 眠くて、たおれちまいいそう。いくら時計を逆まわしに
したって、もう限界だわ。

良 眠れぬ夜を眠れぬままに、鼻であしらう三千世界……。

かあたん、ロープで良を引っぱって退場。子守り歌、遠のく。大学の時計台の鐘。もう消燈の時限かもしれない。まっくらになる。

坂巻太郎が、懐中電灯のあかりをたよりに入ってくる。あたりを物色し、ゴンドラに多分ガソリンだろう、そういうものをふりかけ、マッチをすり、放ろうとする。ゴンドラの下にかくれていた飯繩美喜が、その時、声をかける。

美喜 わたし、見たわ。

坂巻 (うろたえ) え、飯繩さん、なぜ、こんなところに残っていたの？

美喜 あなたこそ、なによ。なにをしようとしたのよ。火つけでしょ、放火でしょ、なんのために？

坂巻 タバコ吸おうとしただけじゃないですか。だけどかあたん、匂いにうるさいでしょ、やめたの。暗すぎるな。ここのあかりのスウィッチ、どこかな？

美喜 メインで切られているのよ。もうまぶしいあかりはない。まぶしいねえ、わたしたちは。どこでも、だれでも同じことか。火をつけたって、この世の一切が消えてなくなるものでなし。

坂巻 酔っぱらってますね。かえりましょうか、送ってあげます。

ああなたの家はどこだっけ？

美喜 ないよ、追いだされちまった、品行不衛生で。

坂巻 品行不衛生？

美喜 おなかが腫れちまったの。わたしの旦那様、いずでございましょうか、どなたでございましょうか？ ……まあ、いいさ、逃げられちまった、ていよく。

坂巻 おなかか腫れちまった、ねえ。

美喜 飯糰美喜は妊娠しています。

坂巻 妊娠、ねえ。

美喜 放火犯よりはましさ。

坂巻 放火犯じゃない、ぼくは。ぼくはそんなに汚れていない。

美喜 わたしだって汚れていない。

坂巻 結婚前の女が身重で、それで汚れてないと云えますか。

美喜 (太郎が照らす懐中電灯をねじふせ) あなたって、ピントが

あわしにくいわ。……おひきとりください。放火が未遂に終わって、なによりだったわね。だまってあげます。

坂巻 どうしてもぼくを火つけの犯人にしたてたいんですね。……

ぼくもぶしつけな質問しましょう。相手の男の人はだれですか？

美喜 酔っぱらっちゃったあ、名前なんか忘れたあ、人相も忘れた

あ、みんな忘れたあ！ ……かえんなさいよ、坂巻君、太郎君。

ここは酔っぱらい収容所、宿なしが泊るところ。

坂巻 いいえ、ちがいます。ここは前のめりになってはばたくぼくたちの神聖な租界です。男に逃げられた女が下宿を追われて仮の

宿にするなんて。……変な気分だなあ、寒いよ、くらいよ、不健

康だよ、風邪ひくよ、おなかの子にさわるよ。ぼくのアパートへ

きませんか、おんぼろだけど。

美喜 もう腰が立たねえんだ。

坂巻 ぼくはかえらせてもらいます。

美喜 ピントがあわない。……朝子さん、達者？

坂巻 達者だと思います。あの人のこと、ほんとはよくわかりません。

美喜 まだお尻にしかれっぱなし？

坂巻 そんなところですよ。

美喜 あなたもよくねばるわねえ！ あんなおすましやさんのどこが気に入ってるの？ まだ厭きがこないの？

坂巻 あの人はぼくに面とむかって云うんですよ。「だまって」

とか、「あなたの話は退屈だ」とか。……こわいですね、女は。

美喜 そうよ、こわいから女なのよ。

坂巻 あの、泣いているんですか？

美喜 わたし、かわいそうな女なの、あんまりみじめすぎるの！

わたしはもうすぐ大人になっちまう、人生をあきらめながらくらしているのに、それも自覚できない大人に！

坂巻 ぼくたち、もっと協力しあえるんじゃないかな。……腰がひえたら毒でしょうが。

美喜 わたしはこごえ死んでもいい、大人になるくらいだったら。

坂巻 だれの子かな。ぼくの知っている人かな？

美喜 答える義務があつたかしら？

坂巻 いや、そんなつもりで。……ぼくは会の責任者だから、見捨てるわけにも。

美喜 だったら、朝までわたしのそばにいてちょうだい。わたしにも綾取り教えて。朝子さん、きつと理解してくれるわ、あるいは

理解の文字を口まめに。

坂巻 ぼくはひきあげるべきでしょう。

美喜 しずかに！ 足音よ、夜警の見廻りよ。

坂巻 もし、もしばれたら！

美喜 カギ！ カギをかけなさい。

坂巻　すぐにかえればよかった。飯繩さんのせえですよ。

懐中電灯を消す。まっくら。ドアにカギをかける音。

足音が近づく。カギをガチャガチャ。ドアがあく、光がね

めまわす。光から逃げる二人。ようやくドアしまる。足音

が遠ざかる。懐中電灯がつく。

坂巻　いのちが凍った。ぼく、かえります。

美喜　どうぞ。

坂巻　あなたもかえるべきなんだけど。

美喜　かえる、かえった。雨がえるに食用がえる、卵がかえってお

たまじゃくしだ、もうすぐ大人のかえるだ、げろげろがあがあ、

かえる、かえる、いつまでたっても同じ言葉しか吐けない！

坂巻太郎の懐中電灯、うすぐらくなってくる。

坂巻　風前のともしび。

美喜　あなたみたい。思いの外ぐずなのね、坂巻太郎。

すうつと消える、懐中電灯。

坂巻　かんじんかなめの時には、勝手に消える役目をちゃんと果し

てしまった。

美喜　マツチ貸して。

坂巻　マツチは危ない。

美喜　問わず語りね、ガソリンまいたんでしよう。

坂巻　とにかく床に火をおとさないように。(マツチをわたす)

美喜　当り前よ、密室で人間の丸焼けなんか、ねがいさげ。

坂巻　カギがない。あなたにわたしたつけ？

美喜　(マツチをつけ) いや。

坂巻　ふしぎだな。(床をさがす)

美喜 刺激的ね、わくわくしてきたんじゃない！

坂巻 脱出不能か！

美喜 (マッチ箱を振る) ほら、マッチも残り少ない。あなたに残りなさいってことよ。

坂巻 ここで飯繩さんと一夜をあかしたなんてうわさがひろまったら、面目ない。ぼくは、ドア蹴破つてもかえるべきでしょう。

美喜 カギはね、わたしがかくしたの。ひとりぼっちで朝を迎えたくないの。

坂巻 冗談はよしてください。(まっくらな中での鬼ごっこだ)

美喜 朝子さん恐怖症か。

坂巻 ぼくは力づくでカギをうばいます。

美喜 そしたらこのマッチ、口へ入れて濡らしちまう。わたしの生き甲斐は、客席の暗闇へ臨み立つこと。

坂巻 男を侮るな。ぼくだって鷹揚には育っていないぞ。

美喜 (マッチをする) 燃えるマッチへ耳をすまして。ほら、亡びの音がよんだ風を切り裂いている。いつそ心中しましようか、背徳の祭りに火ぶくれの溺死体二つ。わたしはもうかまわない、ここへ炎の海を！(と、火のついたマッチをゴンドラへ投げようとする)

坂巻(それをうばいあい) たのみます、かえしてください、カギを。かえしてください、ぼくを！

美喜 さようなら、かえらない明日。さようなら、嵐を告げる朝焼けの空。

坂巻 雪の匂いがある。今日もまた雪降りだ。あの空のにごったあたりから、重たいかたまりになって雪が降りてくる。東京の雪

はきらいだ、いつも灰色なんだもの。灰色の雪。清浄を知らぬ雪、潔白を遠ざけた雪、透きとおった思い出を忘れてしまった雪……。

美喜 外の世界は不在。ここは放火未遂の男と身重の女が息つめてむかいあう、まどわしの奈落。……（最後のマツチをする）残ったマツチはたったの一本。これが燃えつきると真の闇、どろどろの闇、無知の闇。

坂巻 ぼくは新見朝子を愛しています！

美喜 わたしだって逃げる男だけを愛しつづけてきた。もうすぐ闇よ、わたしが闇をつくるのよ！

坂巻太郎、飯繩美喜を抱きしめてしまいそうになると、マツチが消える。まっくら。

舞台サイドから声だけがかかる。

良 うん、まあ、そんなところだろう。

かあたん ほんとと完全な再現だったわね。

カギをカギ穴に入れる音。

ジェット機の暴力。舞台明るくなったら、良、お念、チェ

コブ、かあたんも登場していた。しかもお念が坂巻太郎の

ほっぺたを思いつきりひっぱたいたところだった。みんな

おどろいてとめに入る。

お念 わたしはね、どうしても殴ってやりたかったの。仲間ものは自分のものというような意識が、わたしたちをずるずる弱体化させてしまったようで……、

チェコブ（突然、飯繩美喜に飛びついて）君、ぼく愛してる？

美喜（さっとはずし）なによ！

チェコブ 奇襲攻撃もせんなし、か！

美喜 安全と、あたたかさ、なぐさめあい、……わたし、お先きに失礼してかまわないかしら。気持ちが悪くなってきた。

かあたん 貧血？ ……だったらじっとして、両もの間に首をおしこむようにして……

美喜 ちがうの。酒でも呑めばなおるの。

チェコブ なんか、ぼくにできることある？

美喜 お笑い草だわ。こんな集まりにはついてゆけない、好人物となり果てたみなさんには。坂巻さん、あなたとわたしはここで結びついたんだから、ここでお別れの儀式もあげましょうよ、首尾一貫してるわ。あなた方は、そうやってなかよくかばいあって生きてゆけばいいわ。乾燥しすぎてよんだ風。わたしはだめなんだ、ほころびが見えたら、どこまでも切り裂いてやらなきゃ。おのれが吹きあげる血の海で、わたしはいさぎよく溺れ死ぬつもりよ。さようなら、おつかれさまでした。

飯繩美喜、退場。

良 (苦笑して) また、うまく逃られた。チェコブ、ついてゆくのは禁止だぞ。(寝ころぶ)

チェコブ 未練心はまだわかないよ、すこしは間もおかなくや。思い出しにしても、これは生々しすぎるからな。……この郷愁、この狂態、……去らば苛酷な青春よ。(寝ころぶ)

お念 飯繩さんをひきとめるべきだったわ。(寝ころぶ)
チェコブ 君はいつでも「こうすべきだった」だね。愚痴女房になるぜ、そのうち。

良 あの人にはセックスのカンズメさ。カンをひらいたら、すぐ腐っ

ちまう、食当りする。ああいう人は、ぼくたちの手には負えない、伝染性食当りにみんなかかちまう。ぼくたちはみんな、充足されざるセックスの所有者だからな。

チェコブ セックスの話になると、すぐ眼をかがやかすんだね。言葉のもてあそび方のほうがずっと解放的だよ。禁欲主義が精液の沼で泳いでいるような放埒さだ。

良 もうすこし素直な表現法はないかね。

チェコブ ごめん。ぼく、自分がものを云う時、いつも借り物じゃないかと心配しすぎて、ついついこうなっちゃうんだ。めんどくさいから、思いきってチェーホフだけでしゃべってみたかったんだけど、だから気楽になれるもんでもないしね。

良 もういい、チェコブ。……せっかくだから一言ぼくにも忠告させてくれ。君は、他人へ対する時、自分より劣った人間として発言しないようにまずこころがけるんだな。

大学の時計台の鐘。朝焼けに染る舞台。

坂巻太郎、しょんぼり立っていた。俳優連が端々から覗き

窺う。

太郎 すわらしてほしい。

良 だめだ。

太郎 もう立ってはられない。

お念 わたしたちだつてくたびれているのよ。

チェコブ この疲労、この朦朧、……ついに徹夜か。

坂巻 すわらせてください。

良 眼をつむるな！ だれが眠っていいと許した。

——（童詞ふうに声そろえ）ねむる権利は、だれにもない。

お念、坂巻太郎をゆすぶる。

良 さわるんじゃない。暴力行為と判断される。

お念 こっちの体、動かしてるのよ。動いてないと、こっちが眠りそう。

—— う、ご、き、な、が、ら、ねーむれ。

チエコブ ぼくもお手上げた。つるしあげはもうよそう。

良 これはつるしあげじゃないよ。坂巻太郎が、今後、立直るための、機会をつくってやってるんだ。

チエコブ だからさ、彼も放火の犯罪は認めたんだから。

坂巻 ぼくは認めない。

良 なんだと！ また、はじめにもどそうってのか。

坂巻 認める、認めない、おまかせする。

お念 白状しなさい。放火を約束して、むこうの側からお金もらっ
たんでしよう。

良 金をもらったって！

—— スパイだ。スパイだ、お、の、れ、をスパイしている。

お念 会の集まりがこのごろ悪くなってきたのもこの人のせいよ。

だれかれかまわず借金を重ね、いつかは盗みも働いたのよ。目撃者もいるのよ。

チエコブ おいおい、口からでまかせは困るなあ。破目はずして
も、でっちあげはよしなよ。

良 お前が反省の色を見せないかぎり、新事実は次から次へと飛だ
してくるんだ。……お前は盗みを認めるか？

坂巻 思いあたるふしがない。

—— アリバイつくれ、アリバイさえ、あ、れ、ば。

良 胸に手をおいてよく考えろ。うそをつくな。お前は借金を返さなかつたな。返すあては？

坂巻 あてはない。

良 それですむか。

坂巻 すまない。

良 なめるな。

坂巻 なめない。

良 お前は毎月二千円づつ会へ弁償しろ。文句はないな。

坂巻 ない。

良 (激怒の猛進) 金を返すだけで全部元通りになると思つか。お

前は新見朝子と飯繩美喜の両女性に対して、お前の良心に対して、どう責任をとるつもりだ！

—— だーれが、

—— だーれに、

—— 責任をとれるか、ああ！

坂巻 すわらせてくれ。

良 だめだ、返事をしろ！

坂巻 ゆかせてくれ。

良 許さない、返事が先きだ！

坂巻 (泣きだす) くやしい、くやしい、くやしい……。

俳優連もいっしょに泣きわめく。

かあたん 殺生よ、いいかげんにしなさいよ。排尿訓練だつてお勉強のうちよ。……(坂巻太郎に) 大丈夫、大丈夫、わたしがついてつてあげる、見張つてあげる。自分でちゃんと、パンツぬげるわね、お仕末できるわね。

坂巻 かあたん、かあたん。ぼく、こんなとこ、もうきたくない。だって、いじめっこがいるんだあ！

実際に集録した幼稚園の子どもたちの声が高まる。

二人と俳優連、退場。朝焼けの空消えて、黒一色。

チェコブ どうしても必要だったのかい。ぼくは気がとがめるよ、気がひけるよ、人を裁くのは。

良 いやな役目なことは確かだ。(脚立の上へのぼる)

チェコブ まんざらいやな役目でもなさそうだったじゃないか。颯爽としてたよ、かつての面影がまざまざとよみがえったよ。裏切に対してだけは、いまだなお躍動する精神！(ゴンドラの上に立つ)

お念 言葉がすぎるわ。冗談を云っても、人を傷つけることはしないでしょ、チェコブは。(ポールの上へのぼる)

良 かまわん。もっと批判してくれ。人を傷つけない冗談は、なんの毒にもなりやしない。云い過ぎを恐れるな、云い足りぬことを恐れる。

チェコブ ところが、ぼくときたら、口説一切うんざりしてきているんだ。自分の言葉ははじめからなかったけど、他人の言葉をこねまわすことにも自信を失いつつある。ぼくは失語症にかかりたいくらいなんだよ。言葉は人を裁くし、自分を裁く。たまらない。云いたいことがちつともない。ない。ない。内出血。内助の功。ないがしろ。内縁の妻。ないものねだり。内乱。かないません。ぼくの負けた。(もうチェコブには汗みどろの力業あるのみ)

お念 失語症でしょ。御自由に沈黙なさいな。

チェコブ ぼくだって、すこしの間なら沈黙できるさ。

ジェット機の暴力。

下界には、俳優連がせわしなく登場。街の風景。

いそがしい、いそがしい、

あわただしいよ、がつつくよ。

学んで、遊んで、斗かって、

ぼっかり閑をつくっても、

ああ、その閑がいそがしい。

さあ、どいたどいた。

いそぐんだ、道をふさぐな。

どいたどいた。

どいたどいたどいたどいた……、

どいつだどいつだ。

どいつだどいつだどいつだどいつだ……、

どいつ？

どいつをつかまえるんだ？

あいつをつかまえてくれ！

あいつだあいつだ……、

なんだなんだ……、

火事だ、放火だ、犯人をつかまえろ。

俳優連の中には、新見朝子とかあたんもまじって、うたい

踊っていたのだ。一方踊り歌にまぎれこんで、チェコブと

良は俳優連と共に退場した。

お念（ボールの上から）火事だって、放火だって、犯人追いか

ようよ！

かあたん もうたくさんよ、胸がむかつく。

お念 あ、そうか。ごめんなさい。忘れよう、忘れよう。(黒一色の舞台がもどる)

朝子 わたしは、思いだそう、思いだそう、と努めているのよ、胸むかつかせ、腹立てさせて。忘れてしまったては、なんにもならない、わたしたち。

お念 立派ねえ、朝子さん。しばらく会わないでいたら、見ちがえるように強くなった。

朝子 そうかしら。でも、みんなと顔あわせるのがこわくて、足がふるえる。

かあたん また会うつもりなの、あの人たちと？ あなたを裏切った飯繩美喜と、坂巻太郎と。

朝子 もちろんよ。そのためにもどってきたんだもの。あの人たちも、かならずなんかの形でここへ再びあらわれるはず。

かあたん そりゃそうだけど、そうにはちがいないけど。……わたし、あなたにはかなわないな、そんな簡単に思い切れるなんて。

朝子 思い切れてはいないったら！ ただ、すこし距離をおいて見ることに自信ができただけ。

かあたん それでも、にくらしいんでしょ、やつぱり。

朝子 にくらしいわよ。……ひどいわ、あなたたち。負けた女が一人、ここで歯ぎしりしながら耐えているのよ。興味本位に解剖しないでちょうだい！

お念 (ポールから降りて) わたし、わかるような気がする。この人ね、坂巻太郎たちと会うとき、こんなふうにあいさつするわ、表面さりげなく「やあ、みんな、ずいぶん大きくなったわねえ」

……(ア、ハ、ハ、ハ、と笑い) それで、めでたし、元通りよね。

朝子 元通りにはしたくない。わたしのためらいと別のところで時間過ぎてゆかれては、心が萎え切ってしまう。わたしはかたくなに胸張って対面します。

片隅のゴンドラへ、飯繩美喜がだしぬけに浮び上る。

お念 (気配をさっして) だれ?

美喜 (うろたえたが) 飯繩美喜。

お念 スパイじみた真似をしておどかさないてください。

美喜 ……食べる、チョコレート? (放りなげる)

お念 (つい受けとって) ありがと。

お念、チョコレートを、みんなに分けるが、新見朝子は手にしない。飯繩美喜、近よってきて、わざわざ、もう一枚を強引に巧みに新見朝子へわたす。

四人の女、それぞれの思いを噛みしめながらチョコレートを食べる。

背景を社長とチェコブの声が流れる。

社長 チョコレート、あまいよ。

チェコブ チョコレート、にがいよ。

社長 あまいよ、あまいよ……、

チェコブ にがいよ、にがいよ……、

社長 あまくてにがいよ。

チェコブ にがくてあまいよ。

社長 いけるな。これでゆこう、ボディコピー。……女のいくさの気晴らしに、……「気晴らし」では弱いな。訴求内容が変わってもかまわん、「はげまし」。……女のいくさのはげましに、にがくてあまいチョコレートを、どうぞ!

かあたん（耐えられなくなつて）あのね、今日の研究テーマはね、
擬声語、擬態語についてなの。オノマトペ。自然現象や身振りな
どをそれらしい音であらわすのね。子どものよろこぶ表現法で
す。具体的な物事へじかに結びついているし、発音しやすいし、
リズムのある連音がほとんどだし、それに仲間うちだけで通じる
特殊語も多い。わたしたち、擬声語、擬態語だけで会話してみな
い？わたしからはじめるわよ。……べらべら、ぺらぺら、ぼそ
ぼそ。ぼそぼそ。

お念 ぶつくさ、うろちよろ。

朝子 つん。

お念 ぴよこぴよこ（と、飯繩美喜のところへ飛ぶように）

美喜 ぼやりぼやぼや、ふわりふわふわ。（相手にしない）

お念 いそいそ、ばたばた、どたどた。（もう一方へ）

かあたん （お念を連れもどして）ひそひそ、おろおろ。

お念 しぶしぶ。

朝子 いらいら、じわじわ。（飯繩美喜を正視）

美喜 ほのほの、ぬくぬく。

お念 むずむず、うずうず。

かあたん はらはら、どきどき、どきまき。

朝子 ちくちくちくちく。

美喜 ぬけぬけ、しゃあしゃあ。

朝子 じろり！

美喜 むにゃむにゃ、むりむり。（とぼける）

かあたん あ、それオノマトペかしら？

お念 しっ！

かあたん あたふた。

朝子 ざくっ！

かあたん わなわな、ぞくぞく。

お念 ほくほくほくほく。〔飯繩美喜に寄ってゆく〕

朝子 つかつか。……〔足早やに飯繩美喜のそばへ〕くるり、ぴしゃん。〔お念のおでこをたたく〕

お念 たじたじ、すごすご、くしゃくしゃ、ぶすぶす、ぺこぺこ。

朝子 むらむらのかつか。ぎりぎりの限界。

美喜 えいえい、やっとな。〔朝子を放り投げる型の決まり〕

チェコブ登場。

かあたん オノマトペも他の言葉と同じで慣用句がたくさんありま

すが、それを破った時、新鮮な表現力を発揮します。……さあ、

チェコブもオノマトペごっこへ入りなさい。……はにかまないで、

きよそぎよそしないで、さばさばするする。

チェコブ のど。

かあたん のどはオノマトペじゃないわ。

チェコブ いがらっほい、言葉の骨、ひっかかって、軋って、鳴っ

て、腐って、赤錆びた。〔一言一言苦労して発音し、くたびれる〕

お念 この人、ほとんど啞よ。失語症らしい、意識的な。

朝子 あいかわらず、斜にかまえているの？

美喜 わたしがきらいになったからでしょう、ふしぎでもなんでも

ないけど……。

チェコブ なんでもない。……うん。なんでもない、とならぼくも

云えるな。ぼくはねえ、ぼくは最小限の存在だから、最小限の言

葉しか吐かないように決心したんだ。あきらめたんじゃないよ、

あきらめたんじゃなくて、ぼくがこれからも生きてゆくために、吐く息のように叩きつけるために、必死の覚悟でさがしているんだ、自分の言葉を。なんでもない、か。なんでもない、なんでもない。なるほどねえ。いろんなことがあった、いろんなことの結論が、なんでもない、の一言でおさまるかもしれないな。……なんでもない、どんなことが起ろうと、なんでもない、とはようやく叫べそうだ。先きに手を出せば、やがてその手は噛まれるさ。手を出すな、信じてもいいが手を出すな、なんでもない。大地から天へ逆さまにかけ上って転落、なんでもない。いろんな奴がいてもいい、いろんなことがあってもいい、なんでもない。なんでもない、の呪文の強制に身をささげよう。どの奥の白さにふるえ、なんでもない、とつぶやこう。雨が降ろうが、風が吹こうが、壁が崩れようが、精神が青びようたんにゆすれようが、のみが真赤に跳ねようが、なんでもない、なんでもない……

チエコブの悶絶吐気のような「なんでもない」が、ピアノの上ですわるかあたんによって反復され、うたわれている。

美喜 失語症とはようするに駄弁の中に埋没してしまうことか。

チエコブ なんでもない。

お念 わたし、ここ、いごこち悪い。空気変えましょう。(ポールへのぼる)

チエコブ なんでもない。

お念 このままじゃ、自滅だわ、わたしたち。

チエコブ なんでもない。

美喜 解散ごっこはどう？ 解散ごっこするもの寄っといで。(この人も、うたうようにくりかえしはじめる)

お念 そうじゃないのよ。きつと、わたしたちを越えたもつとたくさんの人へ呼びかけるべきだった。わたしたちの集まりに賛成して、参加してくれる人が、どこかにならず待っていてくれるはず。解散ではなくて、もつと集まりの拡大を考えるべきだった。運動は新しい人たちへ引きつぎ、ひろげ、わたしたちのためには小さな墓碑銘が……、

ジェット機の暴力。

チエコブはゴンドラ、飯繩美喜と新見朝子は脚立の上で背中合せ。五人は、みんなそれぞれ高いところへのぼっていた。そしてほとんどそこに根が生えたように。

下界は街の風景、踊りうたう俳優連。

いそがしい、いそがしい、
あわただしいよ、がつつくよ。

なにがどうして、いそがしいやら、
おつむてんてん、わけもわからず、
ああ、ひたすらに、いそがしい。

—— どれだどいた……、

—— どれだどいた……、

—— つかまえてくれ、火事だ、放火だ。

—— 犯人、追いかける。

—— 十年前にもあったね、こんなこと。

—— 五年前にもあった。

—— 三年前にも。

—— 三年後にも。

—— 五年後にも。

十年後にもあったね、こんなこと。

火事だ、放火だ、犯人をつかまえろ。

追いかける、みんな追いかける。

自転車で。

荷馬車で。

乳母車で。

お念（ポールの上から）すべて、自分の眼で見、自分の耳で聞かなければ安心できない、世界を他人にまかせるわけにはいかない、みなさんへ呼びかけます。わたしたちはこれ以上ひきさがることができないところで、ささやかな集まりを持っています……、美喜 昨日もそう云った、一昨日もそう云った、そういう人は一昨日こい……。

お念 一昨日は一昨日の仕事に追われ、今日は今日にコビを売り、もうどうしようもないと口にとなえ、いたずらに時間をひきのばしているあなたへ呼びかけます。吐き気がむかむかこみあげる。鼓膜の内外を飛び交っている弾丸、めくるめく衝撃波、むこうの側のジェット機が真黒い天となつてのしかかってきました！

ジェット機はここが最大音響だろう。狙撃兵と化す俳優連。

スガガン。

バキューン、バキューン。

ドキュン、ガガガア。

ビスッ、ビスッ、ビスッ、ビスッ。

デイルララ、デイルルルル。

グババーン。

グワツ。

ドギドギギギギ。

死んだのか！

生きてるよ！

よかった！

そして、俳優連、潮のように舞台の外へ。五人は凝固の彫像のまま。

朝子 どうして、そう簡単に通り過ぎてゆくのですか。どうして、そう事務的に、安全に、危険知らずにあざやかに去ってゆけるのですか。教えてください。未来を一目でもいい、のぞきこめたらねえ。未来をのぞきこみ、そこへむかって、たじろがず歩みだすことができたらねえ。これ以上、生きることにくたびれたくないのです。青春をもう一度かえしてください。もう、いやだ。傷つけば必ず血を吹いた、あの青春の日を。もう一度かえしてください。無感動に生きのびたくはないんです。わたしたちの盗まれた青春をかえしてください。

景は黒一色にもどる。しかし、だれも高所から降りることせず、彫像のまま。社長、登場。

社長 おそくなって、すまん。罰金三百五十円、おつりはカンパ。
(受けとる人もいない)

かあたん あの、どちらさんでしたかしら、あなた？

社長 どちらさんか、って……。

かあたん この人、見おぼえある？

美喜 全然。

お念 わたしも知らない。いやになれなれしいわね。

社長 変だなあ。みんなつめたすぎるよ。……ああ、そうか。新しいごっこかい。

お念 わたしたちの会へ入りたいんですか？

社長 ぼくは前から入っているよ。

かあたん それは解散いたしました。

社長 解散したって。みんな、そろってるじゃないか。

お念 さびしい人ねえ、なんのつもりかしら。

美喜 無芸退屈。ぐずぐずしないで、入会したい、つてたのみなさいよ。

社長 うつとうしいな。入会手続きは厄介かい？

かあたん わたしたちで厳正な審査を行ないます。(ピアノをはなれ、社長のそばに)

社長 履歴書です。ぼくの胸ポケットには、履歴書と退職届けがいつも共存しているんだ。

お念 まず資格があるか、どうか。……(これもボールから降りてきて)あなたは、自分の常識的過去にすがって生きてゆく、しかもそれを超一般的想像力でもってつくりたい保持できますか？

社長 できます。

お念 後向きに前へ進めますか。

社長 不可能です。

お念 砂嵐のときは後向きに前へ進むでしょ。

社長 砂嵐でならね、ここは西部だ、コヨーテが鳴いている。

お念 まだまだ大義に殉じることができるとゆめみえますか？

社長 もちろんです、誓います。

かあたん あなたはこの終つひの栖家すまかで、なにをするつもりですか。

社長 解散決議。どうぞ！

美喜 ふまじめよ。

社長 取り消します。

お念 あなたの名は？

社長 実名はかんべん。

かあたん 通称でもかまわないわ。

社長 あだなは社長です。

お念 入会を許可します。(握手)

かあたん あだなが社長であることによつて、あなたはこの集まりの責任者として迎えられることになりました。(握手。三人の拍

手にオーバー・ラップして、実際に集録した学生たちの集会の音

声)

良にひっぱられて坂巻太郎、登場。

良 スパイ一匹、つかまえてきたぜ。

坂巻 朝子さん、またお会いできましたね。あなただけは、ぼくが

卑劣漢じゃないと信じてくれますね。

社長 なにをしかしたんだね、坂巻君？

良 こいつは、会を内部から崩そうと計りおつた。

社長 それは事実とちがうだろう。坂巻君がぼくのいない間の責任を取ってくれたんで、ここまで会が再建できたんだろう？

良 しかし、こいつはこの集まりから脱走しようとした。それに、

新見朝子と飯繩美喜の両女性に対して……、

社長 脱走は、各々みんな試みたよ。君だってやったじゃないか、たびたび。……さあ、坂巻君ももう一度入会の申込みをしなさい。

ぼくたちの集まりには、前進の方向に一步でも沿う、沿いたいと

願望するかぎり、だれでも受け入れる度量の広さがあるんだ、どうぞ！

坂巻 許してもらえらるなら、再入会したい。

良 どこにだ？

坂巻 ここに。

お念 なんで。会にもどる理由をはっきりおっしゃい。

坂巻 わからない。

良 答えになっていない。

かあたん 急がせたり、おどかしたりしてはマイナスよ。長く大人へかわいいかわいいで依存してきた子どもは、集団に対して抵抗力ががないものよ。……ここがなにをする会か知っている？

坂巻 知らない。

かあたん うーんと時間をあげるから、自分で考えて返事してちょうだい。

坂巻 めんどくさい。

かあたんたちは、はやしうたいで、坂巻太郎に対する。踊りの輪に俳優連も加わる。電飾がきらめきだす。

他人様、他人様、

なんとこの男、あわれでござい、

救えるものなら、捨ておきくださいませ。

乳ばなれしていないなら、

乳を与えてくださいませ、

ぶつぶつ不平の泡立ちの、

味もすっぱいおっぱいを。

他人様、他人様、

まわりにむらがる他人様、

素知らぬ顔は、やめてください。

せめて、せめて、せめまくりのせめて、

痛切、きわまりない顔をしてください。

坂巻 (つぶやく) 問答無用。

良 あれ、こいつ変なことを口走った。

お念 なんですって？

坂巻 問答無用！

社長 それはいかん。暗殺の時、使う言葉だ。不穏当だ。

チェコブ 問答無用。うん、ぴったりだ、ぼくものりかえよう、それにきめた、問答無用。

美喜 やっぱり、チェコブは他人の言葉でしか云えないのね。

チェコブ 問答無用。ぼくには、ぼくだけのユニークな響きがある。問答無用！

朝子 わたしも使わしてもらおうわ。問答無用。

かあたん わたしも。問、答、無、用。

「問答無用」の声が全体にうずまきだす。

社長 みんなが使いだすと、とたんにすりきれて、商品価値が下落するよ。……(笑って) 問答無、無、無、無、……。

良 (絶叫) 問答無用。……さあ、次はどんな手だ、びくともしないぞ、坂巻太郎ごときにむしばまればはしないぞ。問答無用。問答無用！

とたんに。坂巻太郎、良へ噛みつく。

良 (振りはなそうとしてもがく) 暴力はやめろ。気がちがったの

か！

坂巻 冷静ですよ。ぼくは、ずっと噛みつきたかったんだ。次はだれだ！

坂巻太郎。お念に噛みつく。

お念 あっ、助けて！

坂巻 おいしい。すばらしい。うれしくて顔の印刷がずれてしまいそう。ぼくはやっと、人間になれる！

チェコブ ついに発見したぞ。ぼくたちの集まりの、とこしえに新鮮な触れ合い。ついに、ぼくたちはとこしえに戦闘的になれる。

なかよく、やってゆこう、カミカミごっこ。はじめに、カミカミありき！

相手かまわず、噛んで歩く。

それが共鳴し、狂乱をつくる。

人に生れ人間になってゆくための、原初の武器。

ごっこの甘美さ、テロルの血の凶猛。

血が血を追い、空舞台となった時、無人のピアノが「螢の光」を演奏しはじめた。

終

劇団三十人会初演（9月21日～30日）